

2009年10月13日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部
副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

欧米株式相場がそろって高値更新

企業業績の改善期待を背景に、米国、英国、フランス、ドイツなどの欧米各国の株式相場は、いずれも2008年10月初旬以来の約12ヶ月ぶりの高値を更新しました。米S&P500指数は、2007年6月以来の6日続伸となりました。米株市場では、オランダ家電メーカーの7-9月期決算が予想外の黒字となったことや先月の欧州販売が堅調と伝えられた自動車大手が上昇するなど、企業業績に対する期待が高まる中、好材料銘柄が上昇しました。また、原油価格の続伸を受けてエネルギー関連株も堅調で、上昇を牽引しました。ただし、Columbus Dayの祝日のため、市場参加者は少なく、非常に薄い出来高でした。

家電メーカーがアナリストの予想に反して黒字となった背景には、徹底したコスト削減があります。リストラ効果による黒字転換が市場ではサプライズとなりましたが、売上高は前年同期比で▲11%の減少でした。そのため、先行きの売上見通しについても慎重姿勢を崩しませんでした。

ドル安によって米株購入コストが低下した欧州などの投資家が、米国株式を買う動きがあるようです。ドル安はドル建て資産の価値低下につながりますが、海外での売上比率が高い米企業にとっては収益を押し上げる要因になることから、ドル安による企業業績の上振れに期待が集まっています。

好調な外部環境を受けて続伸

好調な欧米株式相場を受けて、上昇して始まりました。鉄鋼、機械などの景気敏感株のほか、円高一服を受けて電機や輸送用機器などの外需関連も堅調でした。為替市場では円は主要通貨に対してほぼ全面安の展開で、ドル円相場は89円台後半から90円台まで円安が進みました。ただし、米株先物は朝から軟調に推移しており、日経平均株価も上げ幅は60円程度にとどまりました。しかし、前引け後、中国や香港など堅調なアジア株を背景に、米株先物は上昇に転じ、CIMEXの日経225先物も上げ幅を拡大させました。これを受けて、日経平均株価は後場からCIMEXに鞘寄せする形で上げ幅を広げ、一時100円以上上昇しました。しかし、後場からの上昇は外部環境につられて先物主導で上昇した部分が大きく、高く寄り付いた後は、方向感の欠く展開でした。今晚は米ハイテク大手の決算が予定されていることから、投資家の様子見姿勢も強く、短期筋が大引け直前に買い建てたポジションを解消する動きが見られました。結局、日経平均株価は前営業日比60円高の10,075円と、ザラバに付けた10,100円は下回りましたが、5日続伸で引けました。

業種別騰落率トップは鉄鋼株でした。世界鉄鋼協会は、中国をはじめとする世界の景気回復を背景に、今年の世界の鉄鋼需要見通しを前年比▲14.1%（今年4月時点）から▲8.6%へ上方修正しました。そして、2010年は同+9.2%と、鉄鋼需要は来年回復に向かうとの認識を示しました。ただし、強い見通しの背景には、大型景気対策に支えられている中国の旺盛な鉄鋼需要があり、中国を除いた今年の世界の鉄鋼需要見通しは▲24.4%の大幅減となっています。また、証券大手による鉄鋼株の投資判断引き上げも好材料となりました。鋼材の予想以上の需要拡大と価格上昇などを背景に、業績の上方修正が期待できることなどが、投資判断を引き上げた理由にあげられています。

以上